

# 世界大会 @オーストラリア・シドニー

～女性参画の一層の推進と若者の労働組合運動への参画～

巻頭言



金属労協(JCM)事務局長  
梅田利也

2025年11月、インダストリアル・グローバルユニオンの第4回世界大会がオーストラリアのシドニーで開催され、金属労協からも各産別役員で構成された代表団の皆さまに参加いただいております。

詳細は本誌をご覧くださいと思いますが、このコラムでは「女性参画の一層の推進と若者の労働組合運動への参画」についてふれたいと思います。

## 30%? / 40%? 結成当初から高い女性参画率をめざす

インダストリアル・グローバルユニオンは2012年に結成されましたが、当初から労働組合運動への女性の参画が大きなテーマとなっていました。

デンマークのコペンハーゲンで開催された第1回世界大会では、主要な規約改正として「女性参画比率30%」が確認され、活動がスタートしています。

第2回世界大会(2016年、ブラジル:リオデジャネイロ)における女性参画に関する規約改正では、「女性参画比率40%に拘束力を持たせる」こととしてアクションプランの提案が行われましたが、大会で否決されるこ

とになりました。この時も喧々諤々の議論が行われ、否決とはなりましたが「2020年までに達成する目標値とする」ことが確認されています。

第3回世界大会はリモート開催となりました。ここでは「大会参加代議員40%を女性とする(可決)」「指導部選出について40%を女性とする(否決:30%を努力義務とする)」「執行委員の最低40%を女性とする(可決)」とする規約改正が行われ、今回の世界大会を迎えています。

今回の世界大会に対し、金属労協派遣の代議員については5産別のご協力により50%の女性参画率とすることができ、インダストリアル・グローバルユニオンの運動の一翼を担う組織として、役割と責任を果たすことができたものと考えています。

## 持続可能な組織の実現には次代を担う若年層の参画が必要

女性参画に加え、若者の労働組合運動への参画についても重要なテーマとなりました。

世界大会の前段で開催されたグローバル青年大会に参加したマリー・ニルソン会長は冒頭挨拶で「青年は将来ではなく現在である。私たち自身が未来であり、私たちこそがこの運動の強みである。」と述べていましたが、この言葉は、この活動の本質を表していると感じました。

今回の世界大会では、青年委員会の設置と、諸活動における青年の参画割合を30%

とする目標が規約に盛り込まれました。今後、インダストリアル・グローバルユニオン台では若年層の声を運動に取り込んでいくための体制づくりとPDCAの枠組みの検討などが行われていくこととなります。

この世界的な流れを受け、私たち金属労協は昨年9月に開催した第64回定期大会で、これまでの「女性参画推進の取り組み」に加え、「若年層の組合員の運動参画」に取り組むことを確認しました。

若年層の組合員の運動参画については、金属労協として、また産別組織として、取り組みの重要性を理解するところから始めることとなります。

国際労働運動における金属労協の各種取り組みにおける現在の立ち位置を確認することができた世界大会でした。



マリー・ニルソン会長(青年大会当時)



世界女性大会